

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

「家庭内紛失」の宝くじ券を発見 調べたら、100万円のお大当たり

「ボケたというか、欲が深いというか、恥ずかしい限りですが、結果は大当たりで最高です」。このように当せんの喜びを語るのは東京都の無職Dさん（74）だ。

長年の宝くじファンのDさん。最近はロト7がお気に入りです。毎回、挑戦。第104回号も1口ずつ5通り購入。抽せん日の翌日に番号調べをしようと新聞を広げたが、宝くじ券が見つからない。朝から晩まで家の中をさがしたが、見つからない。「もしかして、帰宅途中に落としたかも…」と、最寄りの交番へも

届けを出したほどだ。

その後も見つからず、釈然としないままだったが、2カ月後のある日、居間の掃除でテレビをどかしたら、わきから、パラッと宝くじ券が1枚…。

「あったかア！ こんなところに」。さっそく売り場で当せん調べをしてもらったら、なんと1口が3等の1,037,100円に当せん。

「すべて自分がいけないんですが、この宝くじは人騒がせというか、ハジかかせというか。でも、うれしいです」とご機嫌のDさん。当せん金で「最近、買いたいなと思っている、ブランド品の時計を買う」そう。そして「交番へは、それなりにきちんと報告しておきます」ともいっていた。



当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

いくつもの「予兆」を信じて大勝負！ 見事に的中して7,000万円の大当たり

「ジャンボはミニが大好き」という兵庫県の洋品店員・K子さん（49）。ジャンボ宝くじ発売のたびにミニを買い続けてきたが、平成26年の年末ジャンボミニで、2等の700万円に1番違いを経験。悔しかったが、同じ宝くじで4等の7万円をゲットした。これで「自分にツキの流れが来ているな」と感じたK子さん。

翌年のドリームジャンボミニ（第679回全

国自治宝くじ）では、いくつか売り場を回り、計70枚を購入。さらに、自分の誕生日でもある発売最終日の6月3日には、JR住吉駅近くの売場で、自分の好きな数字の「7」にこだわり、連番で「17万台」を、あと30枚買って、計100枚を購入した。

結果は、買い足した30枚のうちの1枚「組下1ケタ4組172951番」が1等7,000万円に当せん。当せん金の支払開始日の翌日、さっそく換金に現れたK子さん。「1等番号への大接近とか、発売最終日が誕生日とか、いくつもの予兆があったので、これを信じて勝負しました」と誇らしげに語っていた。



宝くじ おもしろ話

相性のいい「宝くじと夢と歌」 宝くじPRソングあれこれ(上)

宝くじの「PRソング」を、宝くじ売場やテレビCMでも、最近、聞かない。しかし、宝くじの歴史・72年の間には、宝くじのCMソングがたくさんあった。どんな歌があったかを紹介しよう。



「宝くじと夢と歌」。この3つは相性がいい。そして、宝くじの歴史とともに、宝くじの歌が数多くあった。宝くじが誕生したのは昭和20年10月だが、続いて発売された政府「第2回宝籤」の、抽せん会が翌21年1月に行われた。その会場で、なんと「宝くじの歌」

が披露されたのである。

藤浦洸作詞・古関裕而作曲で、歌うは松原操と近江俊郎。当時、一流の人物だ。歌詞は。

へ、ほんの一枚ポケットマネー／当たりや
十万ひと財産／夢がなければ浮世はつらい／
夢より楽しい宝くじ／カラカラカラッと世界
が回る／運も不運もラララで回る

このあとも、続々とPRソングが誕生。「ほがらか家族」「花売り娘」「野球籤の歌」（昭和21年）

「百万円が当たったら」（昭和22年）などといった具合だ。これらの曲の歌詞は残っているが、楽譜やレコードはほとんどが残っていない。もしも、日本のどこかで、これらの曲のレコードを保持している人がいたら、それは「お宝」だ。



ご当地クーちゃん

おほら祭クーちゃん